

令和8年度千葉県高等学校総合体育大会サッカーの部 戦評

決勝 流通経済大柏 vs 市立船橋

プレミアリーグ EAST に所属し、首位を走る流経大柏とセットプレーからの高い得点力と堅い守備で勝ち上がってきた市立船橋の一戦は、互いのプライドが激突、立ち上がりから決勝戦にふさわしい攻防が繰り広げられた。

市立船橋は1-4-4-2の布陣、流経大柏は中盤ダイヤモンド型の1-4-4-2（MF⑩平野がトップ下）を採用。序盤、市立船橋は2トップを起点に縦に速い攻撃で攻め込む。FW⑱秋山がヘディングで競り勝ち、スピードのあるFW⑮秋元が裏への飛び出しやドリブルで相手陣内に攻め込む。対する流経大柏はDFラインからシンプルにFW⑱渡辺へロングボールを供給するが、市立船橋のCB③齊藤とCB④奥田の堅い守備に阻まれる。

試合が動いたのは前半15分。市立船橋は左CKからFW⑱秋山が頭で鮮やかに合わせ先制。その後もコンパクトな陣形から鋭いプレスをかけ主導権を握る。前半30分以降は流経大柏がサイド攻撃から猛追し決定機を作る。ヘディングシュートがクロスバーを叩くシーンもあったが、市立船橋はなんとか凌ぎきり1-0で前半を折り返す。

後半は同点を狙う流経大柏が猛攻を仕掛ける。後半55分、流経大柏はMF⑭古川のスルーパスから抜け出したFW⑬小澤がゴール狙うが、この1対1をGK⑰谷水がビッグセーブ。流経大柏はDF④メンディーを中心とした絶対的な高さを誇る守備陣が相手のカウンターを跳ね返す。終盤には、DF④メンディーを前線へ上げパワープレーに出る。アディショナルタイム、流経大柏はGK⑰大泉も前線へ上げ、残り数分のCKに勝負をかける。直接吸い込まれたと思われたCKを市立船橋のDF④奥田がゴールライン際でクリア、試合は終わったかに思われたが、この後ドラマが起きる。続くDF⑳堀のロングスローから流経大柏がPKを獲得。

80+5分、このPKを渡辺が冷静に沈め、流経大柏が劇的な同点劇で延長戦へと持ち込んだ。

20分間の延長戦は、両校ともに満身創痕となりながらも勝利への執念を見せる緊迫した展開となった。流経大柏は勢いそのままにパワフルな攻撃を試みるが、市立船橋は5バックに移行して凌ぐ。延長後半2分、流経大柏は縦パスのこぼれから再びPKを獲得。このPKを枠上へ外してしまう。その後、流経大柏のFW⑱渡辺、MF⑧加島、MF⑥内田のシュートは、いずれもゴールとはならずスコアは1-1のままタイムアップ。この試合、流経大柏のシュート数は9本、CKが11本、FKは15本。市立船橋のシュート数は3本、CKが5本、FKは22本。まさに死闘である。千葉の頂点を決める戦いはPK戦へと委ねられた。

この激闘に終止符を打ったのは、市立船橋の守護神・GK⑰谷水だった。後攻・流経大柏のキッカーに対し、谷水は神がかった集中力を見せる。1人目、2人目、そして3人目と、相手コースすべて読み、3本すべてのシュートを防ぐ、圧倒的なパフォーマンスを披露。王者を完全にシャットアウトしPKスコア3-0という衝撃的な形で死闘を制した市立船橋が、見事に勝利し、2年ぶりのインターハイ出場を決めた。最後まで諦めずに走り抜き、千葉の高校サッカーのレベルの高さを全国に知らしめる死闘を演じた両校に、スタジアムからは惜しめない拍手が送られた。